

いなむら市長の「い～なこの街 尼崎」 7月

テーマ：ゲスト 貴布禰神社宮司 江田政亮氏と尼崎のいいところ探し

DJ(林)

いなむら市長の「い～なこの街 尼崎」。今回は、貴布禰神社宮司 江田政亮さんをゲストにお迎えし、稲村市長と尼崎のいいところをお話していただきます。稲村市長、江田さんよろしく申し上げます。

市長・江田

よろしく申し上げます。

市長

それでは、江田さんあらためて、こんにちは。

江田

こんにちは

市長

今日は、お忙しい中ゲスト出演ありがとうございます。このFMあまがさきでDJをされている宮司さんがいらっしゃるということを知りまして、またその番組がとっても面白いと、凄く人気があるということも聞いていまして、是非、一度この「い～なこの街尼崎」にもお呼びをしたいと思います。

江田

ありがとうございます。

市長

今日は是非、いろんなお話を聞かせてもらいたいと思います。

江田

よろしく願いいたします。

市長

それではまず、江田さんのご紹介をさせていただきます。江田宮司は、昭和44年生まれ(私47年生まれ)43歳でいらっしゃいます。そして、宮司なんですけれども関学なんです。ちょっと意外なんですけれども、そのあたりのお話もうかがいたいと思いますが、関西学院大学ご卒業後、産経新聞社に入社。産経スポーツの記者として2年間勤務された後に、平成5年にお父さんが亡くなるんです。そして、第17代の貴布禰神社の宮司となられたということです。

関学といえば、ミッションスクールといいますが、キリスト教の学校という感じなんですけれども、宮司になるというのは、どういう、最初からそう思ってなかったってことなんですか？

江田

そうですね。神社で生まれ育ったので周りの方からは、いずれはあなたが継ぐんでしょと言われてたと思うんですけども、やっぱりどこの業界でも同じで父親の仕事を継ぎたいとは、継ぎたくないなという思いがあって、父親もたまたま関学でずっと学んだ、だから私も関学に行ったのは、父親も行ってた縁で行かしてもらって。

市長

そうなんですね。自分は、キリスト教に進むんや、とか別にそこまで思ってなかったんですね。

江田

それは、全くないですけど、ただ祝詞をよむよりも、賛美歌を歌う方が上手い、としばらく言われてましたね。

市長

なるほど、カラオケもお好きなんですか？

江田

カラオケも、祝詞をよむために練習してます。

市長

なるほど。うまいですね。

江田

関学行って、ただ跡継いだ理由は、父親が病気になって苦しみながら仕事をしている父親を見て、手伝わなあかんっていう、親と子の関係から今の道に入ったから。おそらく父親が元気だったら今でも、産経スポーツきっての阪神番の記者だったかもしれません。多分、冗談だったりしますけど。

市長

そうでしたか。その話題の貴布禰神社なんですけども、尼崎市では、非常に大きな神社ですし、とても伝統ある神社なんですけども、京都にも貴船神社ってありますよね？なんか関係あるんですか？

江田

ご祭神が同じなんですね。たかおかみの神という神様を祀っておりまして、水とか雨の神様とされています。尼崎に貴布禰神社があるのは、京都の貴船神社に神様が向かわれるのに尼崎から淀川をさかのぼって、鴨川をさかのぼって、京都の鞍馬の地に行ったという伝承があって、そこから尼崎に貴布禰神社ができたという伝承としてはあります。具体的に事実として考えると、京都と尼崎の結びつきが昔、強かったんで、その京都と尼崎の結びつきが強い中で、人事交流があって、京都の神様を尼崎にという思いがあったかなと思うので、結構、小学生が話を聞きに来た時には、尼崎って凄い街だったんだよ、京都にとって凄い大事な街だったんだよと話します。

市長

やっぱり海を伝っているんなものが行き来する。それを今度は、川に乗り換えて京都の方に。やっぱりそういう意味では、尼崎は昔から交通の要というか、要所。

江田

大阪からより、尼崎からの方がさかのぼりやすかった。

市長

そうですね。今も尼崎駅を基点に北側に線路が延びていますがけれども、近畿一円の中心として栄えてきたんだなとつくづく思います。

江田

そういう関係で、尼崎に貴布禰神社が祀られているということになりますね。

市長

尼崎市の臨海部は、今は工業地帯というイメージですけれども、昔は塩田があったり、もっと以前は、漁業も盛んだったんですよ。

江田

漁師町の面影が、うちの祭りにも残されています。

市長

尼というの自体、海からきているのかなと思わせますし、そういう意味では、水を司る神社というのは、昔から皆さんに親しまれて、また皆さんいろいろとお参りも気軽にされていたのかなという風に思います。今また、寺町も含めまして七福神の取組をされてますでしょ。貴布禰さんは、何にあたるんでしょうか？

江田

福祿寿担当です。寺町の中で7つ目なかったと思うんです。7つ目にどう？って相談受けて、こんな性格なんで。

市長

他は、お寺なのに。

江田

えべっさんが、神社ですけどね。

市長

そうだ、そうだ。

江田

それ以外は、お寺で。寺町さんの中で、やっぱりあまり沢山の方が来られることをよしとされないお寺さんもあったりして、一番近い所で手っ取り早い所で。だんだん私が福祿寿に似てきたって話があった。そんなことはないですけど。

市長

顔がびよ〜んと、頭がこう伸びてきた。

そして、関学というお話もあったんですけども、関学のアメリカンフットボール、結構強いんですけど、貴布禰神社に必勝祈願に来られるって本当ですか？

江田

そうなんです。関学のアメフト、私が高校・大学とクラブに所属しています。

市長

そうなんです。これも意外やわ。

江田

不思議ですよ。多分、日本全国探しても、関学でアメフトやってた神主は、いない。だから今日は、すごく貴重な出合いを市長はされています。

市長

本当です。尼崎自慢の宮司ですから。

江田

卒業してからなんですけど、たまたま1年だけですね、関学はキリスト教主義の学校だから、一回、教会で必勝祈願をしましょうということになったんですって。必勝祈願したら、その年、最悪の6位の年になって、翌年から私の父親に相談があったってということで、今に至るんですね。

市長

そうなんですか。

江田

優勝したら必ず、植樹、桜を植えていただいています。結構、綺麗なやつが出てきていますね。

市長

私たちもちょっと、ますます関学のアメフト応援したくなりますね。

江田

そうですね。尼崎はアメフトのある大学はないですからね。巖屋なしでいけます。

市長

とても身近に感じます。

最初にお話したDJとしても活躍していただいている、このFMあまがさきでの江田宮司が出ていらっしゃる番組なんですけども、これがまた「8時だよ！神さま・仏さま」。タイトルからしておもしろいんですけど、ちょっとどんな番組が教えていただけますか。

江田

平成22年からスタートしたんですけども、今は、ちょっとメンバーが変わってまして、お坊さん、浄元寺の宏林住職さん。関学でキリスト教を教えておられる福島牧師さん。神道、仏教、キリスト教、日本三大宗教の宗教者が揃う番組、これ日本全国でもここだけ。FMあまがさきが誇るべき番組なんです。

市長

お互い気遣って、言いにくいことはないんですか？

江田

逆に言いやすい関係。人間的にも関係性ができてて言いやすい。宗教戦争は絶対論争はおこらない。相手のことをそれぞれおもんばかりながら、話をしていますので。

市長

共通のところもあれば、違うところもあって。

江田

多分行き着くところは、共通ですね。ただ、そこからだんだんと離れてきて、それぞれの考え方があるんですけども。死んだ人は、亡くなった後どこに行くのかとか。結構おもしろいんですよね。それぞれ比べあうと。

市長

私もちょっとだけ、聞かせてもらったことがあるんですけど、おもしろいです。すごく。日本人ってどうしても宗教あんまり身近に感じない人も多いと思うんですけど、一方では、文化と深く結びついていますよね。

江田

そうなんですよ。だから、結構話を聞いていると、これって我々、普段の生活習慣であるよなって。

市長

そうですね。そうですね。意外と身近なところにあるんやって。やっぱり私たち、深くどこか意識して

なくても根ざしているものがあるなと思います。すっごくおもしろいです。さっきも尼崎市というのは、昔から交通の要所で、いろんな人達が行き交う場所なんですけれども、私も実は、尼崎出身ではないんですけれども、市長をさせていただいて、それは尼崎の魅力に魅せられてここに来てるんですけどもね。なんか尼崎ってそういう包容力というか、高度成長時代いろんな地域から人を受け入れて、そこに支えてもらって、それをエネルギーに発展してきた街だと思うんですけども、そういう多様性とかね、いろんな魅力を取り入れる貪欲さみたいなのが尼崎の特徴であり魅力、強みかなと思って、私この番組を知った時に、まさに尼崎ならではというか、これは、そういう尼崎の風土というか気質も無関係には成り立っていない番組じゃないかなって。

江田

私は、そういう土壌で育てられて自然とそうなっているかもしれませんね。感覚がね。

市長

やっぱり違いを見つけるというよりも、同じところをおもしろくお互い結びつけあっていくって、これ本当に尼崎の強みを象徴しているような番組だと思います。これからも是非、是非、続けていただきたいと思いますし、皆さんもっと周りの人にもこの「8時だよ！神さま・仏さま」とこの「い~なこの街 尼崎」を広めてくださいね。そして、もうすぐ、だんじり祭りですね。貴布禰神社といえば、だんじりですけども。

江田

去年、市長さんにもお越しいただきまして。ありがとうございます。

市長

私、初めて生で、目の前で見まして。

江田

これまた、うちわを差し上げときますのでよろしくお願いします。

市長

ありがとうございます。かっこいいんですよ、このうちわも。

江田

300年近く続いているお祭りと言われていまして、特徴あるのが、だんじりが向かい合っつたり合う「山合わせ」というものが特徴ありまして。

市長

すごい迫力なんですよ。

江田

そうなんです。それぞれが、一生懸命にこの日のためだけに頑張ってきてくれていますので是非、楽しみにしていただきたいと思うんですけども、8月の1日がパレードと宮入。2日の日が山合わせということで、それぞれ夕方にあの近辺に行っていただいたら祭り気分が味わえます。

市長

そうですね。まだ見たことないっていう方も、毎年行くでって方も是非ね、ご参加いただきたいと思います。当然、若い人からベテランまで凄い掛け声、掛け合いながら凄い迫力なんですけど、なんて言うんですかね、尼崎って祭りに象徴されるかもしれないですけども人情味といいますか、皆飾らないで、どんどんぶつかっていく、そうゆうところも魅力だと常々感じるんですけども。

江田

そうゆう魅力が、結集されてるお祭り。

市長

そう思います。

江田

いろんな視点から見ると、まだまだ至らないところが沢山あるんですけど、ただ一生懸命、今やっている子達も、献血したり、掃除したり、いろいろ頑張ってくれています。

市長

街づくりにも貢献してくださって、とっても心強く思っています。

江田

ありがとうございます。また、これからも応援してやっていただけたらと思います。

市長

また、今年の夏も楽しみにしております。

DJ(林)

残念ながら、今回の放送はここまでです。この続きは次回の放送をお楽しみください。稲村市長の「い～なこの街 尼崎」。今回は、貴布禰神社宮司 江田政亮さんをごゲストにお迎えし、稲村市長と尼崎のいいところをお話していただきました。それでは、次回の放送も、どうぞお楽しみに。